

OAB-J IP 電話の品質要件の在り方に関する研究会(第1回)
議事概要

【日時】 平成 25 年 12 月 25 日(水) 10:30～11:30

【場所】 総務省 10 階 1002 会議室

【出席者(敬称略)】

< 構成員 >

主査 酒井 善則(放送大学)
主査代理 相田 仁(東京大学大学院)
内田 真人(千葉工業大学)
小林 真寿美((独)国民生活センター)
近藤 則子(老テク研究会)
関口 博正(神奈川大学)
長田 三紀(全国地域婦人団体連絡協議会)

< 事務局 >

安藤 友裕 電気通信事業部長
杉野 勲 電気通信技術システム課長
飯村 博之 電気通信技術システム課企画官
寺岡 秀礼 電気通信技術システム課課長補佐
山本 邦彦 電気通信技術システム課企画係長

【概要】

1. 開会

開催要綱(資料 1-1)について、構成員の承認を得た。また、酒井構成員が主査、相田構成員が主査代理に選任された。

2. 議事

(1) OAB-J IP 電話の品質要件の在り方について(総論)

資料 1-2～1-5 に基づき、事務局及び電気通信事業者(東日本電信電話(株)・西日本電信電話(株)(以下、「NTT」という。)、KDDI(株)(以下、「KDDI」という。)、ソフトバンクテレコム(株)(以下、「ソフトバンク」という。))より説明。(省略)

(2) 意見交換

近藤構成員:今後PSTNからIPネットワークに移行した場合、電話機を買い換えなければ緊急通報を利用できないのか。

NTT:基本的に端末を継続して使用できると認識している。また、緊急通報も引き続き利用可能と考えている。将来的に今までと異なる全く新しい網に移行する場合に、例えば端末まで完全にIP化されるようなことになるのであれば、改めて議論が必要と認識。

KDDI:基本的にはNTTと同じ考え方。従来の電話機がそのまま使えて、緊急通報も使えるような継続的サービスとして提供していく。IP化のためだけに端末を変えなくてはいけないという状況は考えにくい。

ソフトバンク:NTT、KDDIと同意見。時代が進むにつれ、電話機について、IP技術を取り入れた変化はあると思うが、緊急通報の重要性は変わらないと認識している。

長田構成員:0AB-J IP電話の品質基準を緩和することで、現在の端末が使いにくくなることもあり得るのか。

NTT:品質基準が全く無くなり誰でもサービスを提供できるようになった場合という条件であれば、現状の品質規定を前提としている端末が今までどおりに使いにくくなることも想定できる。

酒井主査:品質基準が緩和されたからといって端末が使いにくくなることはないだろう。品質は落ちるかもしれないが。

相田主査代理:資料 1-5 13 ページのFAXを選択できる機能という概念について教えて欲しい。

ソフトバンク:利用頻度の実情を把握することが必要。FAXが必要だというケースにおいては、アナログ電話相当の品質のサービスを利用してもらうことが考えられる。一方、FAXの使用頻度が少ない顧客には、音声品質の基準が緩和されたならば、そういう基準でのサービスが提供できるのではないかと考えている。

相田主査代理:総合品質の規定において、R値の算出確率が 0.95 以上とされているが、どういった確率計算をすべきかがはっきりしていないのが課題。0.95 以上という条件はやめて、例えば「総合品質はR値 80 以上であること。それを下回る場合は事故扱いとする。」というような規定も考えられると思うが、この点についてどのように考えるか。

NTT:R値が 80 を下回った場合であっても、必ずしも故障とは限らない。例えば、インターネットにおいては、ユーザ環境においてパケットループの発生した場合にもR値が 80 を下回ることがあり、該当の状態が発生する環境が多様である。こうした状況についてどのように対応するか議論が必要だと思う。

KDDI:ネットワークで障害が発生した場合、アラームが出るため障害の発生を把握することはできるが、障害によりR値がどのように変化したかを測定することは難しい。

ソフトバンク:大きな方向性として、総合品質の規定に関しては、R値80以上というすっきりした形で整理いただけることを望んでいる。

酒井主査:今後R値についての議論になったときに、R値とパケット損失率・遅延時間の両方について規定が必要なのかどうかも含めて議論したいと思う。

事務局:FAXを選択できる機能の提案については、受信側の品質が原因でFAXを利用できないことを送信側で分かるようにする必要があるのではないかと。誰がどのタイミングで、どのような情報に基づいてFAXの利用の可否を識別できるのかを明確に整理した上で提案という認識でよいか。また、資料 1-5 15 ページにおいて、米国については品質の「規制なし」となっているが、FCCにおいて、IP電話における事業者間接続の数を制限する検討がなされている。IP電話で音が聞こえないといった事例が増えてきたため、新たに規制をかける動きであると認識。この点については事実関係を確認し、本研究会で紹介したい。

酒井主査:昔のFAXは、回線品質が悪くなると自動的に速度を落としてつながるようになっていたはず。ソフトバンクからの提案は、再送した場合も含めて、FAXがつながらなくても仕方がないということか。

ソフトバンク:処理の時間が長くなるものと認識。再送も含めて処理にかかる時間が、高品質のものにくらべると多少長くなる可能性はあると思うが、品質を緩和するということなので、品質を無くすということとは違うと認識。

酒井主査:FAXを無くすということではなくて、今まで10秒だったものが15秒になるかもし

れないというレベルのことか。この点については細かな話となるので、また今後議論したい。

(3) その他

事務局より、今後のスケジュールについて説明。

以上